- んぱく質 Apop-1 によるグルコース のミトコンドリア活性酸素種産生増 大作用. 日本臨床栄養学会雑誌. 32: 159-166, 2011
- 24.Hasegawa Η, Fujitani K, Kurokawa Y, Hirao M, Nakazuru S, Tsujinaka T. Effect of S-1 adjuvante chemotherapy on survival following recurrence and efficacy of first-line treatment on recurrent gastric cancer. Chemotherapy 17: 436-443, 2010
- 25. Imamura H, Kurokawa Y, Kawada J, Tsujinaka T, Takiguchi S, Fujiwara Y, Mori M,Doki Y. Influence of bursectomy on operative morbidity and mortality after radical gastrectomy for gastric cancers: Results from a randomized controlled trial. World J Surg, in press 2010
- 26. Miki Y, Kurokawa Y, Hirao M, Fujitani K, Iwasa Y, Mano M, Nakamori S, Tsujinaka T. Survival analysis of patients with duodenal gastrointestinal stromal tumor. J Clin Gastroenterol 44: 97-101, 2010
- 27. Katsuno T, Wtanabe N, Nagai E, Hamaguchi T, Miyagawa J-I, Namba M.: Comparison of efficacy of concomitant administration of mitiglinide with voglibose and double dose of mitiglinide in patients with type 2 diabetes mellitus. J Diab Invest, doi:

- 10.1111/j.2040-1124.2010.00082.x, 2010
- 28. Nagai E.,Katsuno T.,Miyagawa J., Konishi K.,Miuchi M.,Ochi F., Kusunoki Y., Tokuda M., Murai K.,Hamaguchi T., Namba M.: Incretin responses to oral glucose load in Japanese non-obese healthy subjects. Diabetes Ther2(2): DOI 10.1007/s13300-010-0017-1
- 29. 宮川潤一郎,難波光義. インクレ
- チン関連薬剤の糖尿病治療における 展望. 1. 1型糖尿病治療への可能 性. 月刊糖尿病 2(2):118-124, 2010
- 30. 宮川潤一郎.難波光義. GLP-1 受容 体作動薬-エキセンジン-4. 糖尿病 の最新治療 1(3):114-123, 2010
- 宮川潤一郎. 膵島, インクレチン の基礎と臨床. インクレチン関連薬 と低血糖. Islet Equality 2(3):17-23, 2010
- 32. 宮川潤一郎, 難波光義. インクレ チン関連薬と他剤との併用. 診断と 治療 98(3):423-433, 2010
- 33. 宮川潤一郎. 新しい糖尿病治療薬2-GLP-1 製剤. プラクティス27(2):161-170, 2010
- 34. Taniguchi-Fukatsu A, Matsuoka M, Amagai T. Effect of a high density formula on growth and safety in congenital heart disease infants. E-SPEN, the European e-Journal of Clinical Nutrition and Metabolism, e281-e283, 2010
- 35. Wakita M, Fukatsu A, Amagai T.

- Nutrition assessment as a predictor of clinical outcumes for infants with cardiac surgery: Using the prognostic nutritional index. Nutrition in Clinical Practice, in press, 2011
- 36. 鞍田三貴 チームで行う呼吸ケア.NST の役割. 第 52 回チーム医療 EC研究会雑誌 63-73 2010
- 37. 武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介 結 核患者の入院時栄養状態(第1報). 武庫川女子大学 紀要 印刷中
- 38. 堀内理恵, 北脇涼子, 西村侑子, 谷野永和, 横溝佐衣子 食事バラン スガイドを活用した女子学生の食生 活の調査と食意識の変化:日本食生 活学会誌, Vol.21, 211·216 (2010)
- 39. Yoshida-Yamamoto S, et al. Efficient DNA Extraction from Nail Clippings Using the Protease Solution from Cucumis melo. Mol Biotechnol. 2010
- 40. 前田美也子 権利とアドボカシー、 相談援助の基盤と専門職、加納光 子・成清美治編、学文社、p.104-119、 2010.

2. 学会発表

- 1. 山本遥菜、<u>福尾惠介</u>、他。第 25 回 日本臨床栄養学会、2009
- 2. 河端真実、<u>福尾惠介</u>、他。第 25 回 日本臨床栄養学会、2009
- 萩里早紀、<u>福尾惠介</u>、他。第 25 回 日本栄養改善学会、2009
- 4. 三浦あゆみ、<u>辻仲利政</u>、他。外来化 学療法患者における栄養障害患者の

- 存在:簡易栄養スクリーニングを用いた検討。第25回静脈経腸栄養学会、 2010
- 5. <u>宮川潤一郎</u>、(教育講演)「インクレチン関連薬と1型糖尿病一臨床応用の可能性一、第7回1型糖尿病研究会、日光、2009
- 宮川潤一郎、(シンポジウム) 6. Perspectives on type 2 diabetes the pathophysiology: enteroinsular axis and the role of incretin hormones in glucose homeostasis、第52回日本糖尿病学 会年次学術集会、 WorldWIDE Educational Program. Clinical application of evidence-based medicine for effectively managing Type 2 diabetes: considerations for incretin therapies 、大阪、 2009
- 7. <u>宮川潤一郎</u>、(シンポジウム) Building therapeutic regimens for the individual patient in Japan: case study discussion、第 52 回日 本糖尿病学会年次学術集会、 WorldWIDE Educational Program. Clinical application ofevidence-based medicine for 2 effectively managing Type considerations for diabetes: incretin therapies)、大阪、2009
- 8. <u>宮川潤一郎</u>. (シンポジウム)シンポジウム3. インスリン・経口薬療法、「糖尿病治療での規律と寛容」、第46回日本糖尿病学会近畿地方会、京都、2009

- 9. 西川真司、池田 薫、小西康輔、 美内雅之、勝野朋幸、紺屋浩之、浜 口朋也、<u>宮川潤一郎</u>、難波光義、糖 尿病患者の末梢動脈疾患(PAD)に対 する抗血小板薬の効果、第52回日本 糖尿病学会年次学術集会、大阪、2009
- 10. 浜口朋也、<u>宮川潤一郎</u>、難波光義、 高齢者糖尿病患者における慢性腎臓 (CKD) -進行例の特徴と対策 - 、第 26 回日本老年学会総会/第 51 回日本 老年医学会学術集会、横浜、 2009
- 11. 井野ロ千枝、上田晴康、浜口朋也、 宮川潤一郎、難波光義、岡村春樹、 SDT ラットの膵島傷害における細胞 浸潤マクロファージの役割、第23回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術 集会、岡山、2009
- 12. 濱畑早百合、徳田八大、松尾俊宏、 井田鈴子、美内雅之、勝野朋幸、浜 口朋也、<u>宮川潤一郎</u>、難波光義、劇 症1型糖尿病と考えられる経過をた どり、CGMS が至適なインスリン処方 の確立に有効であった1例、第188 回日本内科学会近畿地方会,大阪、 2009
- 13. 矢野雄三、徳田八大、勝野朋幸、 浜口朋也、<u>宮川潤一郎</u>、難波光義、 CGMS が基礎インスリン処方の確立に 有効であった罹病歴のきわめて長い 1型糖尿病の2症例、第9回日本先 進糖尿病治療研究会、大阪、2009
- 14. 井川貴資、楠宜樹、神谷麻衣、徳田八大、村井一樹、美内雅之、勝野朋幸、浜口朋也、<u>宮川潤一郎</u>、 難波光義、重症レジオネラ肺炎に黄紋筋融解症を併発した GHoma 術後糖尿病

- の1例、第190回日本内科学近畿地 方会、神戸、2009
- 15. Miuchi M., Miyagawa J., Konishi K., Nagai E., Katsuno T., Kataoka S., Konya H., Hamaguchi T., Namba M. Morphologic changes of the endocrine pancreas in Japanese non-obese type 2 diabetes., 45th EASD Annual Meeting, Vienna, Austria, 2009
- 16. Miuchi M., Konya H., Kataoka S., Konishi K., Nagai E., Nakamura Y., Katsuno T., Hamaguchi T., Miyagawa "Is asymmetric J., Namba M., (ADMA) dimetylarginine predictor of diabetic the diseases?", cardiovascular 20th Diabetes International Federation Congress Montreal, Canada, 2009
- 17. 水田里沙,<u>鹿住敏</u>他。2 型糖尿病における食後高血糖の頻度とその関連因子.第52回日本糖尿病学会, 2009.5
- 18. 植山知美,<u>鹿住敏</u>他。2 型糖尿病 における食後高脂血症の頻度とその 関連因子. 第 52 回 日本糖尿病学会, 2009.5
- 19. 浪花翠, <u>鹿住敏</u>他。2 型糖尿病に おいて血清 ALT は代謝性アテローム 硬化危険因子と頚動脈内膜中膜厚 (IMT) に関連する. 第 52 回 日本糖 尿病学会, 2009.5
- 20. 田中早苗,<u>鹿住敏</u>他。正常高値血 圧はインスリン抵抗性でPAI-1、ALT、 γ-GTP が高い. 第52回 日本糖尿病

学会, 2009.5

- 21. 芳野原,<u>鹿住敏</u>他。糖尿病合併高血圧患者の腎機能に及ぼす長時間作用型ニフェジビン製剤と ACE 阻害薬の影響の比較-J-MIND 研究/e-GFR を用いた再解析. 第 30 回 日本肥満学会,2009.10
- 22. 田中早苗,<u>鹿住敏</u>他。過体重(B MI23以上25kg/m2未満) の病態生理と臨床的意義. 第 30 回 日本肥満学会, 2009.10
- 23. 山本遥菜、萩里早紀、谷野永和、 小杉幸代、吉田徹、<u>福尾惠介</u>、地域 在宅高齢者における FT0 遺伝子多型 と体組成との関係、第 32 回日本臨床 栄養学会総会、名古屋、8 月 28-29 日 2010
- 24. Yamamoto H, Tanino N, <u>Fukuo K</u>.

 Genetic Variants of *FTO* may
 influence the relation between BMI
 and BMD in the elderly. Advances
 and Controversies in Clinical
 Nutrition, American Society of
 Nutrition, San Francisco, CA,
 February 25-27, 2011
- 25. 谷崎典子、<u>辻仲利政</u>、他。外来化 学療法中の消化器癌患者における血 清亜鉛と有害事象の関係。第 26 回静 脈経腸栄養学会、2011
- 26. <u>宮川潤一郎</u>. GLP-1 シグナルを利用した新しい糖尿病治療-基礎と臨床-. 第8回日本フットケア学会年次学術集会(ランチタイムセミナー). 2010. 2.28
- 27. <u>宮川潤一郎</u>. GLP-1 シグナルに基づく新しい糖尿病治療と心血管系.

- 第 74 回日本循環器学会・学術集会 (ランチタイムセミナー). 2010. 3.7
- 28. 百武利枝,永井悦子,勝野朋幸, 小西康輔,村井一樹,美内雅之,浜 口朋也,<u>宮川潤一郎</u>,難波光義.強 化インスリン療法中の1型糖尿病患 者に対するミグリトールの併用効果. 第 47 回日本糖尿病学会近畿地方会 2010.11.13 大阪
- 29. 楠 宜樹, 勝野朋幸, 栗並昇, 竹原 樹里, 越智史浩, 徳田八大, 村井一樹, 浜口朋也, <u>宮川潤一郎</u>, 難波光義. CGMS を用いて良好な血糖管理が得ら れた糖尿病合併妊娠の 2 例. 第 26 回 日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 2010.11 埼玉
- 30. 北村倫子, 徳田八大, 塩田修三, 竹原樹里, 越智史浩, 楠宜樹, 村井一樹, 美内雅之, 勝野朋幸, 浜口朋也, <u>宮川潤一郎</u>, 難波光義. 早期に粘液水腫性昏睡と診断し救命しえた 2 型糖尿病の 1 例. 第 192 回日本内科学会近畿地方会 2010.9.11 大阪
- 31. 赤崎愉子, 楠宜樹, 岡崎健, 竹原樹里, 越智史浩, 徳田八大, 村井一樹, 勝野朋幸, 浜口朋也, 宮川潤一郎, 難波光義. リラグルチド使用後血糖管理改善を認めたインスリン抗体陽性糖尿病患者の1例. 第47回日本糖尿病学会近畿地方会2010.11大阪
- 32. 北村倫子, 徳田八大, 塩田修三, 竹原樹里, 越智史浩, 楠宜樹, 村井一樹, 美内雅之, 勝野朋幸, 浜口朋也, <u>宮川潤一郎</u>, 難波光義. 早期に粘液水腫性昏睡と診断し救命しえた 2 型糖尿

- 病の1例. 第 21 回老年医学会近畿 地方会 2010.11.20 大阪
- 33. 角田拓, 楠宜樹, 栗並昇, 竹原樹里, 越智史浩, 徳田八大, 村井一樹, 勝野 朋幸, 浜口朋也, <u>宮川潤一郎</u>, 難波光 義. リラグルチド使用後血糖管理改 善を認めたインスリン抗体陽性糖尿 病患者の1例. 第193回日本内科学 会近畿地方会2010.12神戸
- 34. 美内雅之, <u>宮川潤一郎</u>, 浜口朋也, 難波光義. 膵島病変からみたインク レチン治療の可能性。第 47 回日本糖 尿病学会近畿地方会 2010.11.13 大 阪
- 35. Miuchi M, Miyagawa J, Konishi K, Nagai E, Katsuno T, Hamaguchi T, Namba M. Morphologic changes of the endocrine pancreas in Japanese non-obese type 2 diabetes with special reference to the relative β-cell area, so-called "β-cell mass". 14th International Congress of Endocrinology (ICE 2010), in Kyoto, Japan, 2010.
- 36. Nagai E, Miyagawa J, Konishi K, Miuchi M, Katsuno T, Kusunoki Y, Tokuda M, Murai K, Hamaguchi T, Namba M. Incretin responses to oral glucose load in Japanese non-obese healthy subjects.the 8th IDF WPR Conference 2010.10 20 Busan
- 37. Konya H, Miuchi M, Ueyama T, Konishi K, Nagai E, Kusunoki Y, Tokuda M, Murai K, Ida S, Katsuno T, Hamaguchi T, Miyagawa J, Namba

- M. Asymmetric dimetylarginine (ADMA) could affect cardiovascular complications of type 2 deiabetes, particularly in addition to with nephropathy. 14th International Congress $\circ f$ (ICE2010) 2010. Endocrinology Kyoto
- 38. Nagai E, Miyagawa J, Konishi K, Miuchi M(as a speaker in the place of Mrs. Nagai), Katsuno T, Kusunoki Y, Tokuda M, Murai K, Hamaguchi T, Namba M. 8th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress (IDF-WPR) 2010. Busan
- 39. 松永美希、金守良、<u>鹿住敏</u>:非アルコール性脂肪性肝炎における血清 ALT と GGT に対する瀉血の効果。14 回 日本病態栄養学会,横浜、平成23年1月
- 40. 田中早苗, 呉斌, 鈴木一永, <u>福尾</u> <u>惠介</u>, 芳野原, <u>鹿住敏</u>: 下半身脂肪 (LFM) が多い若年女性は血清脂質と アディポカインが抗動脈硬化的であ る。第 31 回 日本肥満学会, 前橋, 平成 22 年 10 月
- 41. 田中翠、田中早苗, 呉斌, <u>福尾惠</u> <u>介</u>, 芳野原, <u>鹿住敏</u>: 若年非肥満女性においても Fat mass- and obesity-associated gene (FTO) は体脂肪蓄積とインスリン抵抗性に関与する。第 31 回 日本肥満学会, 前橋, 平成 22 年 10 月
- 42. 湊聡美、石田早紀、田中早苗、飯 塚節子、岡本綾香、北野有季、桐畑

- あすみ、<u>鹿住敏</u>:2 型糖尿病患者に おいて食後の TG 値は食後血糖値と 関連する。第53回 日本糖尿病学会, 岡山, 平成22年5月
- 43. 田中早苗, 呉斌, <u>福尾惠介</u>, 芳野原, <u>鹿住敏</u>: 血清肝酵素と糖代謝、 血圧との関連。健常女性における検 討。第53回 日本糖尿病学会, 岡山, 平成22年5月
- 44. 石田早紀、田中早苗、飯塚節子、 岡本綾香、北野有季、桐畑あすみ、 湊聡美、<u>鹿住敏</u>:2 型糖尿病患者に おいて、頸動脈 IMT は新興リスクで はなく、従来のリスクと関連する。 第 53 回 日本糖尿病学会,岡山,平 成 22 年 5 月
- 45. <u>鹿住敏</u>、田中翠、田中早苗, 呉斌, 福<u>尾惠介</u>, 芳野原, : γ ーglutamyltransferase (GGT) の高い女性は頚動脈内膜中膜厚 (IMT) が厚い。第53回 日本糖尿病学会, 岡山, 平成22年5月
- 46. 牛尾有希,武田陽,三浦あゆみ, 増村美佐子,小西すず,鈴木秋子, 尾崎悦子,梅崎絹恵,松井朋美,<u>鈴</u> 木一永,臨床現場における糖尿病食 事指導ツールとしてのバランス型紙 の有用性について.第32回 日本臨 床栄養学会 総会
- 47. 小西すず,鈴木秋子,武田陽,梅 﨑絹恵,松井朋美,尾﨑悦子,増村 美佐子,<u>鈴木一永</u>,武庫川女子大学 いきいき栄養学講座 20 年の成果(第 一報)-年代別、BMI 別にみた減量効 果-. 第 57 回 日本栄養改善学会 学 術集会

- 48. 武田陽, 小西すず, 鈴木秋子, 梅 﨑絹恵, 松井朋美, 尾﨑悦子, 増村 美佐子, <u>鈴木一永</u>, 武庫川女子大学 いきいき栄養学講座 20 年の成果(第 二報)-バランス型紙を活かす独自の アセスメント法-. 第 57 回 日本栄養改善学会 学術集会
 - 49. 増村美佐子,武田陽,梅崎絹恵, 鈴木秋子,尾崎悦子,松井朋美,小 西すず,<u>鈴木一永</u>,いきいき栄養学 講座による集団食事指導は全ての年 齢層(40~70歳代)で減量効果を発揮 する.第31回 日本肥満学会
- 50. 武田陽, 松井朋美, 小西すず, 鈴木秋子, 梅﨑絹恵, 尾﨑悦子, 増村美佐子, <u>鈴木一永</u>, 武庫川女子大学「いきいき栄養学講座」20年間の実践と成果 第一報: 受講生の特徴. 第69回 日本公衆衛生学会 総会
- 51. 鈴木秋子, 小西すず, 武田陽, 梅 﨑絹恵, 松井朋美, 尾﨑悦子, 増村 美佐子, <u>鈴木一永</u>, 武庫川女子大学 「いきいき栄養学講座」20 年間の実 践と成果 第二報: 教材と指導法. 第 69 回 日本公衆衛生学会 総会
 - 52. 小西すず,鈴木秋子,武田陽,梅 﨑絹恵,松井朋美,尾﨑悦子,増村 美佐子,<u>鈴木一永</u>,武庫川女子大学 「いきいき栄養学講座」20年間の実 践と成果 第三報:減量の成果.第 69回 日本公衆衛生学会 総会
 - 53. TakedaA, SuzukiA, UmezakiK, Matsui T, OzakiE, MasumuraM, UshioY, MiuraA , KonishiS, <u>Suzuki K</u>, More than 70 % of clients succeeded in weight reduction by over 5 % using the

- diet balance sheet (DBS). 11th International Congress on Obesity 2010
- 54. OzakiE, SuzukiA, MasumuraM, Konish iS, Watanabe Y, <u>Suzuki K</u>, A comparison of diet intervention using our diet balance sheet between persons with and without diabetes. 8th International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress
- 55. 武内海歌 鞍田三貴、他. 年齡別 にみた結核菌陰転化と入院時栄養状 態の関係. 第 14 回病態栄養学会、 2011. 1
- 56. 後神絵里奈、鞍田三貴、他。年齢 別にみた結核菌陰転化と入院時栄養 状態の関係. 第26回静脈経腸栄養学 会、2011. 2
- 57. 中野可奈子、林 清二 鞍田三貴 他 結核患者の入院時栄養状態と摂 取量の関係. 第26回静脈経腸栄養学 会、2011. 2
- 58. 高橋志乃、<u>谷野永和</u>、前田佳代子 外来肥満患者における栄養教育の媒 体と性格傾向の関連性について 第 57回日本栄養改善学会学術総会、東 京、9月10-12日2010
- 59. 山本周美ら。日本人妊婦における トランス脂肪酸摂取が胎児の発育に 及ぼす影響(2010年9月4日日本脂 質栄養学会第19回大会)
- 60. 山本周美ら。母体のトランス脂肪 酸摂取が胎児の発育に及ぼす影響 (2010年5月23日第64回日本栄養 食糧学会大会)

- 61. 前田美也子、Sung Lai Boo、韓国 における地域児童センター実践とリ ーダーシップ~フェミニスト・ソー シャルワークの視点。日本社会福祉 学会全国大会、日本福祉大学、2010 年10月
- 62. 長谷川裕紀、一ノ瀬智子 他。「地 域高齢者を対象とした集団音楽活動 における内分泌・免疫学的指標の変 化」第10回 日本音楽療法学会学術 大会 2010 年 9 月
- G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)
 - 1. 特許取得
 - 該当なし。
 - 2. 実用新案登録 該当なし。

 - 3. その他

なし。

Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

—————————————————————————————————————	 論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Baba Y, <u>Fukuo</u>	Timp-3 deficiency im pairs cognitive functi on in mice.		89	1340-1347	2009
	C allele of angiotens in II type 1 receptor gene A1166C polym orphism affects plas ma adiponectin concentrations in healthy young Japanese women.	es.	32	901-905	2009
Wu B, <u>Fukuo K, Kazumi T</u> , e t al.,	Relationships of syst emic oxidative stress to body fat distribu tion, adipokines and inflammatory mark ers in healthy middl e-aged women.		56	773-782	2009
Hanasaki H, <u>Fukuo K</u> , et al.,	Fas promoter region gene polymorphism is associated with a n increased risk for myocardial infarction.	Hypertens R es.	32	261-264	2009
	Randomized controlled trial of Roux-en-Y versus Rho-shaped-Roux-en-Y reconstruction after disital gastrectomy for gastric cancer.	al of Surger y	33	290-295	2009
	Feasibility study of S-1 plus weekly doce taxel combined with concurrent radiothe rapy in advanced ga stric cancer refractor y to first-line chemo	R RESEARC H		3385-3392	2009
	A Case Report of La irge Thymic Hyperp asia Associated with Hyperthyroidism.	horacic and		404-407	2009
三浦あゆみ、 <u>辻伯</u> <u>利政</u> 、他。	外来化学療法患者における栄養障害患者の存在:簡易栄養スクリーニングを用いた検討	<u> </u>	印刷中		2010

	Pleiotropic effects of mitiglinide in type 2 diabetes mellitus.		37	1904-1912	2009
	Role of macrophages in the development of pancreatic islet i njury in spontaneous ly diabetic torii rats.		58	383-394	2009
他。	若年女性における座位 中心の身体活動が循環 器疾患のリスク要因に 及ぼす影響	学会雑誌	56	839-848	2009
他	若年女性において飽和 脂肪酸と野菜の1日摂 取量はインスリン抵抗 性と相関する		52	271-278	2009
	アポリポ蛋白A-I,A-I I,A-IV	日本臨床	68	83-85	2009
脇田真紀、 <u>雨海照</u> 祥他。	乳児における予後推定 栄養指数(PNI)の意 義に関する検討―心臓 手術患児の場合―	栄養	43	39-47	2009
脇田真紀、 <u>雨海照</u> <u>祥</u> 他。	乳児の術前の身体指標 は術後のアウトカム指標となり得るか―心臓 疾患症例における検討	栄養	44	95-103	2010
鈴木一永	本来の「ダイエット」 の意味とは何なのか.	肥満と糖尿病	8 (3)	440-442	2009
<u>鈴木一永</u> , 尾崎悦 子	食事の組み立て方 -献 立を考えるにあたって 	肥満と糖尿病	8 (4)	581-583	2009
<u>鈴木一永</u> ,増村美 佐子	食事指導におけるアセ スメント ・エネルギー 計算ではわからないも の・.	肥満と糖尿病	8 (5)	758-761	2009
<u>鈴木一永</u> , 牛尾有 希, 梅崎絹恵	食事と運動の組み合わせ・1日1万歩はわかり やすく適切な目標である・		8 (6)	914-916	2009
	生活のくふう ・手抜き は大切な食事療法・.	肥満と糖尿病	9 (1)	157-159	2010
鈴木一永, 三浦あ ゆみ, 小西すず	ダイエットによる血液・生化学検査値の変化.		9 (2)	328-330	2010
鞍田三貴	呼吸療法に必要な栄養	チーム医療 E C研究会雑誌	48	67-87	2009

鞍田三貴	呼吸療法に必要な栄養	チーム医療 E C研究会雑誌	49	63-76	2009
横溝佐衣子、 <u>谷野</u> 永和他	魚主菜献立の特徴の分 析 ―給食管理学実習 の事例より―	日本給食経営 管理学会誌	3	3-9	2009
前田佳予子、 <u>谷野</u> <u>永和</u> 他	高齢者の咬合力と食生 活について	保健の科学	51	635-639	2009
堀内理恵、 <u>谷野永</u> 和他	栄養士養成課程学生の 目測能力および食意識 変化	日本食生活学 会誌	20	230-238	2009
<u>-Yamamoto S</u> , e t al.	An N-glycosylation s ite on the beta-prope ller domain of the integrin alpha5 subunit plays key roles in both its function and site-specific modification by beta1, 4-N-acetylglucosaminyltransferase III.	m.	284	11873-118 81	2009
1.	Integration of the Principles of TURE in to a Model for Contemporary Social Work Practice in Korea.		15	77-88	2010
Y, Hino K, Sa		CryoLetters.	in press		2011
Tanaka S, Bin W, Honda M, Suzuki K, Yoshino G, Fukuo K, Kazumi T.	Associations of lower-body fat mass with favorable profile of lipoproteins and adipokines in healthy, slim women in early adulthood.	J Atheroscle r Thromb.	in press		2011
Tanaka S, Bin W, Honda M, Nanbu S, <u>Suzu</u> <u>ki K</u> , <u>Fukuo K</u> <u>Kazumi T</u>	Associations of 18-year-old daughters' and mothers' serum leptin, body mass index and DXA-derived fat mass.	J Atheroscle r Thromb.	17	1077-1081	2010

Yasuda O, Ohishi M, Mogi M, Takemura Y, Suhara T,	Nifedipine inhibits vascular smooth muscle cell dedifferentiation via downregulation of Akt signaling.	Hypertension	56	247-252	2010
宏、深田瑠美、山	内皮細胞におけるミト コンドリア局在たんぱ く質Apop·1によるグル コースのミトコンドリ ア活性酸素種産生増大 作用	学会雑誌	32	159-166	2011
Hasegawa H, Fujitani K, Kurokawa Y, Hirao M, Nakazuru S, Tsujinaka T.	Effect of S-1 adjuva nte chemotherapy on survival following r ecurrence and efficac y of first-line treatm ent on recurrent gas tric cancer.	У	17	436-443	2010
urokawa Y, Ka wada J, <u>Tsujinaka T,</u> T akiguchi S, Fuji wara Y, Mori	Influence of bursecto my on operative mor bidity and mortality after radical gastrect omy for gastric canc ers: Results from a randomaized controll ed trial.	g	35	625-630	2011
wa Y, Hirao M,	Survival analysis of patients with duoden al gastrointestinal stromal tumor.	oenterol	44	97-101	2010
Masuda H, Masuda N, Kodama Y, Ogawa M, Karita M, Yamamura J, Tsukuda K, Doihara H, Miyoshi S, Mano M, Nakamori S, Tsujinaka T.	Predictive factors for the effectiveness of neoadjuvant chemotherapy and prognosis in triple-negative breast cancer patients.	Cancer Che mother Phar macol.		911-917	2011
Matsuyama K, Mishima H, Ueno H, Kajihara K, Morioka A, Morimoto S, Yamauchi K, Honda Y, Komori K, Tsujinaka T.	Etiology and manage ment of venous pain during intravenous administration of ox aliplatin.		38	411-414	2011

Miyamoto A, Nakamori S, Tsujie M, Yasui M, Ikenaga M, Miyazaki M, Hirao M, Fujitani K, Mishima H, Tsujinaka T.	Re-resection of the li ver as reduction sur gery for hepatocellul ar carcinoma.	癌と化学療法	37	2673-2675	2010
a M, Yasui M, Miyazaki M, Mi			37	2659-2661	2010
Sueda K, Ikenaga M, Miyazaki M, Yasui M, Mishima H, Tsujie M, Omiya H, Miyamoto A, Hirao M, Takami K, Fujitani K, Nakamori S, Yoshida K, Tsujinaka T.	A case of squamous cell carcinoma of the anal cancer with as sociated human imm unodeficiency virus.		37	2656-2658	2010
Ikenaga M, Miyazaki M, Yasui M, Mishima H, Tsujie M, Miyamoto A, Hirao M, Fujitani K, Nakamori S, Yoshitatsu S, Tsujinaka T.	A case of total pelvic exenteration and reconstruction of perianal skin defect using a VY advancement of bilateral gluteus maximus musculocut aneous flaps for anal canal cancer associated with anal fistula.		37	2650-2652	2010
Kimura Y, Machida H, Fujitani K, Yamamoto M, Tominaga K, Yano H, Shimokawa T, Takiuchi H, Tsujinaka T, Furukawa H.	Combination of S-1 and paclitaxel for advanced/recurrent gastric cancer patients with peritoneal metastasis, feasibility study (OGSG0401).	1	37	151-155	2010

anabe N, Nagai E, Okazaki K, Yokoyama A,	Comparison of effica cy of concomitant ad ministration of mitig linide in patients wi th type 2 diabetes mellitus	J Diabetes Invest	in press		2010
no T, <u>Miyagaw</u> <u>a J</u> , Konishi K,	Japanese non-obese healthy subjects	Ther	2	1-9	2010
Hasegawa Y, Hamaguchi T, Satani K, Umehara A, Katsuno T, Ishikawa T,	Effects of gliclazide on platelet aggregation and the plasminogen activator inhibitor type 1 level in patients with type 2 diabetes mellitus.	Metabolism	59	1294-1299	2010
	インクレチンの関連薬 剤の糖尿病治療におけ る展望―1型糖尿病治 療への可能性―	月刊糖尿病		118-124	2010
<u>宮川潤一郎</u> , 難波 光義		糖尿病の最新 治療	1	114-123	2010
宮川潤一郎	インクレチン関連薬と 低血糖	Islet Equalit y	11	17-21	2010
宮川潤一郎, 難波 光義	インクレチン関連薬と 他剤との	診断と治療	98	423-433	2010
宮川潤一郎	新しい糖尿病治療薬 2 -GLP-1製剤	プラクティス	27	161-170	2010
	Clinical Features of Normal Weight Japanese Patients with Type 2 Diabetes who had Formerly been Obese.	J Atheroscle r Thromb.	18	115-121	2010

tsu A, Matsuok	Effect of a high den sity formula on grow th and safety in con genital heart disease infants	opean e-Jour nal of Clinic		e281-e283	2010
Tanaka S, Honda M, Wu B, <u>Kazumi T</u> .	NY 1337 · 1 /	J Atheroscle r Thromb.	18	115-121	2010
tsu A, Matsuok	Effect of a high den sity formula on grow th and safety in con genital heart disease infants	opean e Jour nal of Clinic		e281-e283	2010
	Nutrition assessment as a predictor of clinical outcomes for infants with cardiac surgery: using the prognostic nutritiona l index		in press		2011
鞍田三貴	チームで行う呼吸ケ ア.NSTの役割.	チーム医療 E C研究会雑誌	52	63-73	2010
武内海歌、鞍田三貴、福尾惠介	結核患者の入院時栄養 状態(第1報)	武庫川女子大 学 紀要	印刷中		2011
子, 西村侑子, 谷	食事バランスガイドを 活用した女子学生の食 生活の調査と食意識の 変化		21	211-216	2010
Yoshida-Yamam oto S, et al.	Efficient DNA Extra ction from Nail Clip pings Using the Prot ease Solution from Cucumis melo.	nol.	46	41-48	2010
前田美也子	権利とアドボカシー	相談援助の基 盤と専門職		104-119	2010

Hypertension Research (2009) 32, 901−905 © 2009 The Japanese Society of Hypertension All rights reserved 0916-9636/09 \$32.00

www.nature.com/hr



ORIGINAL ARTICLE

C allele of angiotensin II type 1 receptor gene A1166C polymorphism affects plasma adiponectin concentrations in healthy young Japanese women

Katsuko Miyanaga^{1,2}, Keisuke Fukuo^{1,2}, Hiroshi Akasaka³, Tomohiro Katsuya⁴, Rumi Fukada¹, Hiromi Rakugi⁴ and Tsutomu Kazumi¹

Angiotensin II and its type 1 receptor (AT1R) are both expressed in the adipose tissue and involved in the genesis of atherosclerosis as well as hypertension. However, the influence of the AT1R gene A1166C polymorphism on atherosclerosis risk factors and on the development of early atherosclerosis is not clear. We evaluated 416 healthy young women to investigate the effects of this genotype on atherosclerosis risk factors and on carotid intima-media thickness as a validated marker of early atherosclerosis. After adjusting for confounding factors including body mass index, homeostasis model assessment of insulin resistance and plasma high-density lipoprotein (HDL)-cholesterol levels, plasma adiponectin concentrations were significantly lower in carriers of the C allele compared with non-carriers. Moreover, multiple logistic regression analysis showed that the C allele was the strongest and most independent determinant of lower plasma adiponectin concentrations. It is noted that the participants with the lowest quartile of plasma adiponectin concentrations had thicker levels of carotid intima-media thickness, lower plasma HDL-cholesterol and lipoprotein lipase levels, as well as higher trunk fat mass compared with the highest quartile. In addition, a weak but significant positive correlation was observed between percentages of fat in the diet and plasma adiponectin concentrations in non-carriers of the C allele. In conclusion, AT1R A1166C was associated with plasma adiponectin concentrations and influenced the correlations between dietary fat intake and plasma concentrations of adiponectin. These findings may help to identify vulnerable populations that are susceptible to the development of atherosclerosis and require early dietary recommendations for young women.

Hypertension Research (2009) 32, 901-905; doi:10.1038/hr.2009.111; published online 21 August 2009

Keywords: angiotensin II type 1 receptor; polymorphism; adiponectin; dietary fat intake

INTRODUCTION

Accumulating evidence shows that angiotensin II (AII), a major effector peptide of the renin-angiotensin system (RAS), contributes to the pathogenesis of the metabolic syndrome and atherosclerosis.¹⁻³ It is noted that human adipose tissue possesses all of the components necessary for production of AII and AII type 1 receptor (AT1R). The adipose tissue RAS has a role in the process of adipogenic differentiation and in the regulation of body weight.³ Most physiological responses triggered by AII occur through activation of the G-protein-coupled AT1R. A common polymorphism in the AT1R (A1166C) has been linked to enhanced physiological responses to AII.⁴ In addition, this polymorphism in the human AT1R has been associated with phenotypic effects including insulin sensitivity and metabolic syndrome traits as well as high blood pressure.^{5,6} Although this polymorphism is located in the 3'-untranslated region of the human AT1R, recent evidence shows that the polymorphism can lead

to increased AT1R densities through inhibition of the ability of miR-155 to attenuate translation of AT1R mRNA.⁷

Adipose tissue is a highly active metabolic and endocrine organ that secretes many biologically active substances, collectively known as adipocytokines.⁸ Adiponectin is an anti-atherogenic and insulinsensitizing adipocytokine that is stably present in the plasma at very high concentrations. Human studies showed that adiponectin is downregulated in patients with obesity-related diseases, including type 2 diabetes, metabolic syndrome and hypertension.⁹ Importantly, AII infusion decreases plasma adiponectin levels,¹⁰ and RAS blockade decreases adipocyte size with improvement in insulin sensitivity in rats.¹¹ In addition, blockade of the RAS increases plasma adiponectin concentrations in patients with essential hypertension.¹² However, it remains to be determined whether ATIR A1166C affects plasma adiponectin concentrations in humans. Furthermore, plasma adiponectin concentrations were lower in mice fed a high-fat diet compared

Correspondence: Dr K Fukuo, Department of Food Sciences and Nutrition, School of Human Environmental Sciences, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Hyogo, 663-8558. Japan.

E-mail: fukuo@mukogawa-u.ac.jp

Received 19 December 2008; revised 25 May 2009; accepted 23 June 2009; published online 21 August 2009

¹Department of Food Sciences and Nutrition, School of Human Environmental Sciences, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan; ²The Research Center for Elderly Nutrition and Development, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan; ³Second Department of Internal Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine, Sapporo, Japan and ⁴Department of Geriatric Medicine and Nephrology, Osaka University Medical School, Suita, Japan



with control mice.¹³ Another study reported that a high-fat meal did not elicit changes in serum adiponectin compared with fasting baseline levels in healthy male subjects.¹⁴ Thus, the effects of dietary fat intake on plasma adiponectin concentrations are unclear at present.

It is well established that atherosclerosis is a progressive multifactorial process that begins in early life. 15-17 However, few studies have examined the risk factors of atherosclerosis development in young women. In particular, the interaction between genes and environmental factors in the development of early atherosclerosis in young female populations is not clear. Thus, this study was designed to investigate the association between ATIR A1166C and plasma adiponectin concentrations in young female subjects. We also investigated the influence of ATIR A1166C on the correlation between dietary fat intake and plasma adiponectin concentrations in these subjects.

METHODS

Participants

Between July 2004 and December 2007, 416 students from 18 to 23 years of age were recruited from Mukogawa Women's University. We received approval from the Institutional Review Board and written informed consent was obtained from all participants in this study.

Body composition and biochemical measurements

Blood samples were taken from each of the participants in the morning following overnight fasting. We measured the fasting plasma glucose, insulin, hemoglobin A1c (HbA1c), lipoprotein lipase (LPL), high-sensitivity C-reactive protein (hs-CRP), free fatty acid (FFA) and serum lipid concentrations including triglycerides (TG), high-density lipoprotein (HDL) cholesterol and low-density lipoprotein (LDL) cholesterol by standard laboratory techniques. Plasma levels of adiponectin and plasminogen-activator inhibitor 1 (PAI-1) were measured with commercial kits. Body composition was determined by dual-energy X-ray absorptiometry. Blood pressure was measured between 0900 and 1200 h (noon), with participants resting in the sitting position. Intimamedia thickness (IMT) in the carotid artery was measured with the participants in a supine position after a few minutes of rest. Indices of obesity and insulin resistance were derived from body mass index (BMI) and a homeostasis model assessment of insulin resistance (HOMA-IR), respectively.

Estimation of habitual food intake

Percentages of protein, fat and carbohydrate in the diet were estimated by using the responses to a self-administered diet history questionnaire, developed for use in the evaluation of nutrient intake levels and health education among both healthy individuals and high-risk populations. The diet history questionnaire was designed to obtain information about dietary habits for the previous month with regard to total energy and 17 nutrients.¹⁸

Determination of AT1R A1166C polymorphism genotypes

Genomic DNA was extracted from 200 µl of whole blood, following the blood spin protocol recommended by the manufacturer for use of the QIAamp DNA Blood Kit (Qiagen Inc., Valencia, CA, USA). ATIR A1166C polymorphism genotypes were determined by the TaqMan polymerase chain reaction method. The primers and probes for genotype determinations were as follows: forward primer 5'-CATTCCTCTGCAGCACTTCACT-3', reverse primer 5'-CGGTTC AGTCCACATAATGCAT-3', probe for A (1166) 5'-FAM-CAAATGAGCAT TAGCTACMGB-3', probe for C (1166) 5'-VIC-CAAATGAGCCTTAGCTACT-MGB-3'. Each reaction included 1 µl of the DNA sample including 30 ng of genetic DNA, 0.3 µl of each primer, 0.1 µl of each probe, 5 µl of the TaqMan Universal Master Mix (Applied Biosystems, Foster City, CA, USA) and 3.2 μl of sterile distilled water. Polymerase chain reaction cycling conditions were 1 cycle at 95 °C for 10 min, 45 cycles at 92 °C for 15 s and 60 °C for 1 min. Polymerase chain reaction and allelic detection were carried out using an ABI Sequence Detection System 7500 and allelic discrimination software, both from Applied Biosystems.

Ultrasound studies

IMT was measured by ultrasonic diagnosis equipment (Shimazu SDU-2200, Shimazu, Tokyo, Japan) that was programmed with IMT software (Intimascope, Media Cross Co. Ltd., Tokyo, Japan) as described. ¹⁹ This software makes it possible to automatically recognize the edges of the internal and the external membranes of the blood vessels and to automatically measure the distance at a sub-pixel level (estimated to be 0.01 mm), using a three-dimensional polynomial measurement formula.

Carotid artery ultrasonography was performed using a 10-MHz scanning frequency in B mode. One skilled observer, blinded to the subjective data, scanned the vessel in transverse planes. Subjects were examined in a supine position. Images were obtained in the 20 mm proximal to the origin of the bulb at the far wall of the right common carotid artery. In all subjects examined in this study, no plaque was observed in this segment. Average IMT was the average value of 250 computer-based points in the region.

Statistical analysis

Agreement with the Hardy–Weinberg equilibrium was tested by comparing the observed and expected genotype frequencies of the participants using the χ^2 -test for good fit with Fisher's exact tests. On account of the very low frequency of the 1166C allele, participants who were homozygous for CC were combined in the analysis with those who were heterozygous AC to increase the statistical power. Normality of variable distribution was tested by the Kolmogorov–Smirnov test.

Quantitative data with a normal distribution were presented as the mean ± s.d., and data with a skewed distribution were presented as the median (interquartile range). Comparisons between carriers of the C allele and noncarriers were made using unpaired t-tests for continuous variables with normal distribution and with the nonparametric Mann-Whitney U-test for continuous variables with a skewed distribution. Pearson's and Spearman's coefficients of correlation were used as appropriate. A univariate generalized linear model was used to test for the heterogeneity of regression. To examine the independent contribution of the ATIR A1166C polymorphism to plasma adiponectin levels when adjusting for the effects of other clinical characteristics, logistic regression analysis with forward stepwise selection was used. For this analysis, participants were divided into two groups at the median of plasma adiponectin concentrations. We adjusted for confounders with the use of analysis of covariance (ANCOVA). To normalize variables with skewed distributions, logarithm, square root and inverse were used for data transformations as appropriate. Data were analyzed with SPSS (release 16.0); SPSS Japan, Tokyo, Japan) and differences were considered significant with a P-value of ≤ 0.05 .

RESULTS

Genotype and participant characteristics

We examined the influence of ATIR A1166C on anthropometric features. The distributions of AT1R A1166C genotypes were as follows: AT1R A1166C AA, 83.2% (n=346); AC, 15.9% (n=66); and CC, 0.9% (n=4). The observed genotype frequencies in this study were in the Hardy-Weinberg equilibrium (χ^2 =0.185, P=0.912) and were similar to results from previous studies of Japanese populations.²⁰ There were no significant differences between carriers of the C allele and noncarriers in terms of age, height, weight, BMI, SBP, DBP, pulse rate, trunk fat mass, plasma concentrations of lipoproteins, plasma fasting glucose levels, HOMA-IR, HbA1c or IMT (Table 1). However, plasma adiponectin concentrations were significantly lower in carriers of the C allele compared with non-carriers. For comparison of plasma adiponectin concentrations between genotype groups, we used ANCOVA with BMI, HDL-Ch and HOMA-IR as covariates. The results of the evaluation of the assumptions of normality for sampling distributions and the homogeneity of variance were satisfactory. After adjustment by covariates, plasma adiponectin levels were significantly lower in carriers of the C allele compared with non-carriers (P=0.043) (Table 2). As shown in Table 3, multiple logistic regression analysis with forward stepwise selection, after controlling for age, BMI,



Table 1 Characteristics and plasma adipocytokine concentrations of carriers and non-carriers of the C allele of the AT1R A1166C polymorphism

	n	AA	n	AC+CC	P-value
Age (years)	346	20.0 (20.0–21.0)	70	20.0 (19.0-21.0)	0.050
Height (cm)	346	160.4 (157.0-164.2)	70	162.4 (158.3-166.0)	0.053
Weight (kg)	346	53.2 (49.3-58.8)	70	54.7 (50.3-60.4)	0.215
BMI (kg m ⁻²)	346	20.6 (19.4-22.1)	70	20.6 (19.4-22.0)	0.878
TG (mg dl^{-1})	346	52.0 (41.0-68.3)	70	45.5 (38.8-67.3)	0.149
HDL-Ch (mgdl-1)	346	74.0 (67.0-84.0)	70	74.0 (63.8-82.3)	0.474
LDL-Ch (mgdi-1)	346	93.4 (78.8–109.7)	70	90.2 (77.0–105.9)	0.242
Glucose (mg dl-1)	346	83.0 (79.0-88.0)	70	83.0 (80.8-89.0)	0.440
HbA1c (%)	346	4.8 (4.6-5.0)	70	4.7 (4.6–4.9)	0.145
HOMA-IR	342	1.1 (0.7–1.5)	69	1.0 (0.7-1.6)	0.792
$LPL (ngdl^{-1})$	220	72.2 (60.2–85.3)	40	79.5 (65.0-96.8)	0.088
SBP (mm Hg)	346	106.5 (100.0-112.6)	70	106.0 (99.0-113.1)	0.699
DBP (mm Hg)	346	60.0 (55.5–66.1)	70	60.3 (56.0-66.8)	0.892
Pulse rate (beats/min)	344	60.0 (55.0-66.0)	70	60.5 (53.0-69.0)	0.781
Trunk fat mass (kg)	343	6.5 (5.3–8.1)	69	6.6 (5.2–7.7)	0.791
IMT (mm)	122	0.41 (0.37~0.45)	18	0.44 (0.40-0.47)	0.054
Adiponectin (µg ml ⁻¹)	346	11.1 (8.4–14.2)	70	10.2 (7.6–13.2)	0.021*
PAI-1 (ng ml ⁻¹)	345	19.0 (13.0-26.0)	69	19.0 (13.0-25.5)	0.785

Abbreviations: BMI, body mass index; DBP, diastolic blood pressure; HDL, high-density lipoprotein, HOMA, homeostasis model assessment; IMT, Intima-media thickness; LDL, low-density lipoprotein; PAI-1, plasminogen activator inhibitor 1; SBP, systolic blood pressure. Values are expressed as median (interquartile range). *P<0.05

Table 2 Analysis of covariance of genotype groups of ATIR A1166C toward plasma adiponectin concentration, with BMI, HDL-Ch and **HOMA-IR** as the covariates

Source of variance	Adjusted sum of square	d.f.	F	В	P-value
ВМІ	3.184	1	8.567	17.187	0.004**
HDL-Ch	13.164	1	35.459	0.229	< 0.001**
HOMAIR	0.088	1	0.264	-0.061	0.608
Genotype	1.531	1	4.123	-0.164	0.043*

Abbreviations: BMI, body mass index; HDL, high-density lipoprotein; HOMA, homeostasis model

Data transformation: BMI; Inverse, HDL-Ch; Square root, HOMA-IR; Logarithm. d.f.; degree of freedom, F:F value, B: standardized partial regression coefficient. *P<0.05, **P<0.01. Values are expressed as median (interquartile range)

Table 3 Stepwise logistic regression analysis with above and below the median of plasma adiponectin concentrations as the dependent variable and selected variables as the independent variable

						ence interval ds ratio
Variables	В	s.e.	P-value	Odds ratio	Lower	Upper
C allele	0.720	0.291	0.010	2.055	1.184	3.565
ВМІ	0.104	0.045	0.022	1.110	1.015	1.213
HDL-Ch	-0.036	0.008	< 0.001	0.965	0.950	0.980

Abbreviations: BMI, body mass index; HDL, high density lipoprotein; TG, triglycerides. B: partial regression coefficient. Not accepted variables were age, TG, HOMA-IR.

HDL-Ch, triglycerides and HOMA-IR, showed that the genotype with the C allele of the AT1R A1166C polymorphism was the strongest and the most independent determinant of lower plasma adiponectin

concentrations (odds ratio: 2.055, 95% CI: 1.184-3.565, P=0.010), followed by BMI (odds ratio: 1.110, 95% CI: 1.015-1.213, P=0.022) and HDL-Ch (odds ratio: 0.965, 95% Cl: 0.950-0.980, P<0.001). There were no significant differences, however, in plasma PAI-1 concentrations between these two groups.

Next, we examined whether clinical parameters differed between the participants in the lowest quartile of plasma adiponectin concentrations and those in the highest quartile. The participants in the lowest quartile of plasma adiponectin concentration showed significantly lower HDL-Ch and LPL levels and higher BMI and trunk fat mass when compared with participants in the highest quartile. Importantly, carotid IMT levels were significantly higher in the lowest quartile of plasma adiponectin concentrations than those in the highest quartile. No significant differences in low-density lipoprotein cholesterol, triglycerides, HOMA-IR and blood pressure, however, were observed between these groups (Table 4).

Correlations between percentage of fat in the diet and plasma adiponectin concentrations in the genotype groups

Next, we examined the effects of dietary fat intake on plasma adiponectin concentrations in both genotypes. There were no significant differences in the mean or median intake of protein, fat and carbohydrate in the diet between carriers of the C allele and non-carriers (Table 5). Unexpectedly, a weak but significant positive correlation was found between the estimated percentages of fat in the diet and plasma adiponectin concentrations in non-carriers of the C allele (r=0.161, P=0.004) but not in carriers (r=0.148, P=0.263). There was no significant difference between the slopes of regression for carriers and non-carriers of the C allele (P=0.731) (Figure 1).

DISCUSSION

In this study, we found that plasma adiponectin concentrations were significantly lower in carriers of the C allele of the AT1R A1166C gene polymorphism compared with non-carriers among a population of young Japanese women. To our knowledge, this report is the first to



Table 4 Characteristics of the participants in the lowest or highest quartiles of plasma adiponectin concentrations

	n	The lowest quartile < 8.3	n	The highest quartile 13.9≤	P-value
BMI (kg m ⁻²)	104	21.0 (19.7-22.4)	105	20.4 (19.2–22.0)	0.016*
Trunk fat mass (kg)	104	7.1 (5.7-9.4)	104	6.5 (5.3–7.4)	0.003**
HDL-ch (mg dl ⁻¹)	104	69.0 (61.0-78.0)	105	78.0 (68.0-90.0)	< 0.001**
LDL-ch (mg dl ⁻¹)	104	93.5 ± 22.4	105	93.0 ± 23.1	0.869
TG (mg dl ⁻¹)	104	60.5 (42.0-75.5)	105	52.0 (38.5-65.5)	0.060
LPL (ng ml ⁻¹)	58	63.9 (55.1-76.1)	79	79.4 (69.0–96.2)	< 0.001**
HOMA-IR	102	1.06 (0.74–1.67)	104	1.09 (0.73-1.55)	0.730
Glucose (mg dł ⁻¹)	104	83.7 ± 6.5	105	83.3 ± 7.8	0.747
HbA1c (%)	104	4.8 (4.6–5.0)	105	4.7 (4.6-4.9)	0.390
Leptin (ngml ⁻¹)	104	8.1 (5.3–10.9)	105	6.9 (5.2–9.5)	0.049*
SBP (mm Hg)	104	106.0 (99.6-114.8)	105	108.0 (102.5-113.0)	0.409
DBP (mm Hg)	104	61.8 (55.1–67.4)	105	62.5 (57.0-68.0)	0.260
Pulse rate (beats/min)	104	62.0 (55.3-67.8)	105	58.0 (53.0-67.0)	0.124
IMT (mm)	40	0.43±0.06	45	0.39 ± 0.06	0.003**

Abbreviations: BMI, body mass index; DBP, diastolic blood pressure; HbA1c, hemoglobin A1c; HDL, high-density lipoprotein, HOMA, homecstasis model assessment; IMT, Intima-media thickness; LDL, low-density lipoprotein; LPL, lipoprotein lipase; SBP, systolic blood pressure; TG, triglycerides. Values are expressed as median (interquartile range) or mean±s.d. *P<0.05, **P<0.01.

Table 5 Estimated habitual food intakes in carriers and non-carriers of the C allele of the AT1R A1166C polymorphism

	n	AA	n	AC+CC	P-value
Fat (percentage of energy)	309	30,1 (26.0–33.2)	59	30.4 (27.0–33.6)	0.852
Carbohydrate (percentage of energy)	309	54.8 (51.0-58.9)	59	55.5 (50.7–58.9)	0.996
Protein (percentage of energy)	309	13.3 ± 2.0	59	13.2 ± 2.3	0.803

Values are expressed as median (interquartile range) or mean ± s.d. *P<0.05.

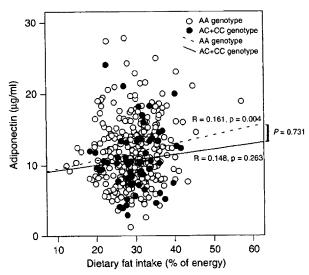


Figure 1 Correlations between dietary fat intake (percentage of energy) and plasma concentrations of adiponectin.

show that the ATIR A1166C polymorphism may influence changes in plasma adiponectin concentrations in humans. Adiponectin is a unique and essential adipocytokine that is produced very abundantly from adipocytes and is stably present in the plasma at very high concentrations. Recent studies emphasize the part played by

adiponectin in the homeostasis of adipose tissue and in the pathogenesis of the metabolic syndrome and atherosclerosis.²¹ Adiponectin levels are positively correlated with HDL-cholesterol but inversely with insulin; the levels are reduced in obesity and type II diabetes⁹ and lower in hypertensive patients compared with normotensive patients.²² Plasma concentrations of adiponectin are, however, stable throughout the menstrual cycle²³ and also not affected by menopause in healthy women.²⁴

Interestingly, participants in the lowest quartile of plasma adiponectin concentration had lower HDL-Ch and LPL levels and higher trunk fat mass compared with those in the highest quartile. In addition, the participants in the lowest quartile had thicker carotid IMT levels compared with those in the highest quartile. These results suggest that carriers of the C allele with lower adiponectin concentrations may be more susceptible to the development of atherosclerosis.

Although the mechanism underlying lower adiponectin concentrations in carriers of the C allele of the AT1R A1166C gene polymorphism is not clear at present, a silent polymorphism, A1166C, occurs in the 3'-untranslated region of the human AT1R gene that can lead to increased AT1R densities. This suggests that the effect of AII may be enhanced in carriers of the C allele of the AT1R A1166C polymorphism. 4,25–27 It is noted that AII infusion decreases plasma adiponectin levels through its type 1 receptor in rats, ¹⁰ and treatment with an AII type 1 receptor antagonist increases plasma adiponectin levels in hypertensive patients. ¹² These results suggest that a difference in activation of the local RAS may be directly involved in the variation between genotypes with regard to plasma adiponectin concentrations. However, further investigation is required to confirm this hypothesis.



In this study, we also found a genotype-dependent correlation between the percentage of fat in the diet and plasma adiponectin concentrations. Unexpectedly, there was a weak but significant positive correlation between plasma adiponectin concentrations and percentage of fat in the diet in non-carriers of the C allele, but not in carriers. Although the mechanism of this result is not clear, it was reported earlier that no correlation was found between dietary fat intake and plasma adiponectin concentration in humans, ¹⁴ suggesting that this relation may be specific for this genotype. Follow-up studies are necessary to clarify these points.

In conclusion, we showed that plasma adiponectin concentrations were associated with the C allele of the AT1R gene in young healthy women and that the AT1R genotype might affect plasma levels of adiponectin when these young women consume a high-fat diet. These results suggest that genotyping of the AT1R A1166C polymorphism may help to prevent the development of metabolic syndrome and atherosclerosis in young women.

ACKNOWLEDGEMENTS

We thank Ms Sayaka Ohashi, Ms Kazuko Iwasa, Ms Seiko Kaji and Ms Eriko Nagata for laboratory and technical support during this investigation. This study was supported by a Grant-in-Aid for Scientific Research from the Japanese Ministry of Education, Science, Sports and Culture; also by the Open Research Center Project of Mukogawa Women's University for studying life-style-related diseases; by a Grant-in-Aid for Scientific Research (H17-pharmaco-common-003) from the Japanese Ministry of Health, Labor, and Welfare; Grants-in-Aid for Scientific Research (18590265, 18590811, 19650188) from the Ministry of Education, Science, Sports and Culture of Japan; and by research grants from the Takeda Science Foundation and the Japan Research Foundation for Clinical Pharmacology.

- 1 Prasad A, Quiyyumi AA. Renin-angiotensin system and angiotensin receptor blockers in the metabolic syndrome. *Circulation* 2004; 110: 1507–1512.
- 2 Ogihara T, Asano T, Ando K, Chiba Y, Sakoda H, Anai M, Shojima N, Ono H, Onishi Y, Fujishiro M, Katagiri H, Fukushima Y, Kikuchi M, Noguchi N, Aburatani H, Komuro I, Fujita T. Angiotensin II—induced insulin resistance is associated with enhanced insulin signaling. Hypertension 2002; 40: 872–879.
- 3 Engeli S, Negrel R, Sharma AM. Physiology and pathophysiology of the adipose tissue renin-angiotensin system. *Hypertension* 2000; 35: 1270–1277.
- 4 Spiering W, Kroon AA, Fuss-Lejeune MMJJ, Daemen MJAP, de Leeuw PW. Angiotensin II sensitivity is associated with the angiotensin II type 1 receptor A1166C polymorphism in essential hypertensives on a high sodium diet. *Hypertension* 2000; 36: 411–416.
- 5 Bonnardeaux A, Davies E, Jeunemaitre X, Charru A, Clause E, Tiret L, Cambien F, Corvol P, Soubrier F. Angiotensin II type 1 receptor gene polymorphisms in human essential hypertension. *Hypertension* 1994; 24: 63–69.
- 6 Abdlooahi MR, Gaunt TR, Syddall HE, Cooper C, Phillips DIW, Ye S, Day INM. Angiotensin II type I receptor gene polymorphism: anthropometric and metabolic syndrome traits. J Med Genet 2005; 42: 396–401.
- 7 Martin MM, Buckenberger JA, Jiang J, Malana GE, Nuovo GJ, Chotani M, Feldman DS, Schmittgen TD, Elton TS. The human angiotensin II type 1 receptor +1166 A/C polymorphism attenuates microRNA-155 binding. J Biol Chem 2007; 282: 24262–24269.

- 8 Jaleel F, Jaleel A, Aftab J, Rahman MA. Relationship between adiponectin, glycemic control and blood lipids in diabetic type 2 postmenopausal women with and without complication of ischemic heart disease. Clin Chim Acta 2006; 370: 76–81.
- 9 Mahmud A, Feely J. Adiponectin and arterial stiffness. Am J Hypertens 2005; 18: 1543–1548.
- 10 Ran J, Hirano T, Fukui T, Saito K, Kageyama H, Okada K, Adachi M. Angiotensin II influsion decreases plasma adiponectin level via its type 1 receptor in rats: an implication for hypertension-related insulin resistance. *Metabolism* 2006; 55: 478-488.
- 11 Furuhashi M, Ura N, Takizawa H, Yoshida D, Moniwa N, Murakami H, Higashiura K, Shimamoto K. Blockade of the renin-angiotensin system decreases adipocyte size with improvement in insulin sensitivity. J Hypertens 2004; 22: 1977–1982.
- 12 Furuhashi M, Ura N, Higashiura K, Murakami H, Tanaka M, Moniwa N, Yoshida D, Shimamoto K. Blockade of the renin-angiotensin system increases adiponectin concentrations in patients with assential hypertension. Higgstension, 2003, 43, 76, 91
- centrations in patients with essential hypertension. *Hypertension* 2003; **42**: 76–81. 13 Zhou Q, Du J, Hu Z, Walsh K, Wang XH. Evidence for adipose –muscle cross talk: opposing regulation of muscle proteolysis by adiponectin and fatty acids. *Endocrinology* 2007; **148**: 5696–5705.
- 14 Poppitt SD, Keogh GF, Lithander FE, Wang Y, Mulvey TB, Chan YK, McArdle BH, Cooper GJS. Postprandial response of adiponectin, interleukin-6, tumor necrosis factor-α, and C-reactive protein to a high-fat dietary load. *Nutrition* 2008; 24: 322–329.
- 15 Zieske AW, Tracy RP, McMahan CA, Herderick EE, Homma S, Malcom GT, Mcgill HC, Strong JP. Elevated serum C-reactive protein levels and advanced atherosclerosis in youth. Arterioscler Thromb Vac Biol 2005; 25: 1237–1243.
- 16 Raitakari OT, Juonala M, Kahonen M, Taottonen L, Laitinen T, Maki-Torkko N, Jarvisalo MJ, Uhari M, Jokinen E, Ronnemaa T, Akerblom HK, Viikari JS. Cardiovascular risk factors in childhood and carotid artery intima-media thickness in adulthood. *JAMA* 2003; 290: 2277–2283.
- 17 Knoflach M, Kiechl S, Kind M, Said M, Sief R, Gisinger M, van der Zee R, Gaston H, Jarosch E, Willeit J, Wick G. Cardiovascular risk factors and atherosclerosis in young males: ARMY study. Circulation 2003; 108: 1064–1069.
- 18 Sasaki S, Yanagibori R, Amano K. Validity of a self-administered diet history questionnaire for assessment of sodium and potassium –Comparison with single 24-h urinary excretion. *Jpn Circ J* 1998; **62**: 431–435.
- 19 Yanase T, Nasu S, Mukuta Y, Shimizu Y, Nishihara T, Okabe T, Nomura M, Inoguchi T, Nawata H. Evaluation of a new carotid intima-media thickness measurement by B-mode ultrasonography using an innovative measurement software, intimascope. Am J Hypertens 2006; 19: 1206–1212.
- 20 Kikuya M, Sugimoto K, Katsuya T, Suzuki M, Sato T, Funahashi J, Katoh R, Kazama I, Michimata M, Araki T, Hozawa A, Tsuji I, Ogihara T, Yanagisawa T, Imai Y, Mtsubara M. A/C1166 gene polymorphism of the angiotensin II type 1 receptor (AT1) and ambulatory blood pressure the Observant Study Humpton Res 2003, 28, 141, 145.
- latory blood pressure: the Ohasama Study. *Hypertens Res* 2003; **26**: 141–145. 21 Matsuzawa Y, Funahashi T, Kihara S, Shimomura I. Adiponectin and metabolic syndrome. *Arterioscler Thromb Vasc Biol* 2004; **24**: 29–33.
- 22 Tsuda K. Adiponectin and membrane fluidity of erythrocytes in normotensive and hypertensive men. Obesity 2006; 14: 1505–1510.
- 23 Asimakopoulos B, Milousis A, Gioka T, Kabouromiti G, Gianisslis G, Troussa A, Simopoulou M, Katergari S, Tripsianis G, Nikolettos N. Serum pattern of circulation adipokines throughout the physiological menstrual cycle. *Endocr. J* 2009; Feb: 18.
- 24 Muscelli E, Kozakova M, Flyvbjerg A, Kyriakopoulou K, Astiarraga BD, Glintborg D, Konrad T, Favuzzi A, Petrie J. The effect of menopause on carotid artery remodeling, insulin sensitivity, and plasma adiponectin in healthy women. Am J Hypertens 2009; 22: 354–370.
- 25 Van Geel PP, Pinto YM, Voors AA, Buikema H, Oosterga M, Crijns HJGM, van Gilst WH. Angiotensin II type 1 receptor A1166C gene polymorphism is associated with an increased response to angiotensin II in human arteries. *Hypertension* 2000; 35: 717–721.
- 26 Nishikino M, Matsunaga T, Yasuda K, Adachi T, Moritani T, Tsujimoto G, Tsuda K, Aoki N. Genetic variation in the renin-angiotensin system and autonomic nervous system function in young healthy Japanese subjects. *J Clin Endocrinol Metab* 2006; 91: 4676–4681.
- 27 Lim HS, Cho JY, Oh DS, Chung JY, Hong KS, Bae KS, Yu KS, Lee KH, Jang IJ, Shin SG. Angiotensin II type 1 receptor 1166A/C polymorphism in association with blood pressure response to exogenous angiotensin II. Eur J Clin Pharmacol 2007; 63: 17–26.

Relationships of Systemic Oxidative Stress to Body Fat Distribution, Adipokines and Inflammatory Markers in Healthy Middle-aged Women

BIN WU*, KEISUKE FUKUO*. **, KAZUHISA SUZUKI*. **, GEN YOSHINO*** AND TSUTOMU KAZUMI*. **

Abstract. Obesity and systemic oxidative stress are closely related. However data concerning the relationships between oxidative stress and body fat mass distribution are sparse. Anthropometric and metabolic profile was evaluated in 148 clinically healthy middle-aged women to assess the correlations between oxidative stress, fat mass distribution, adipokines, and inflammatory markers. Systemic oxidative stress was assessed by urinary creatinine-indexed 8-epi-prostaglandin F-_{2α} (8-epi-PGF_{2α}). Body fat mass distribution was examined by dual-energy X-ray absorptiometry (DXA). Lipid profile, adipokines and inflammatory markers including leptin, adiponectin, high sensitive C-reactive protein (hsCRP), plasminogen activator inhibitor-1 (PAI-1), tumor necrosis factor-α (TNF-α) were determined. We found body mass index (BMI), waist circumference (WC), both central and peripheral DXA-derived regional fat mass (FM) accumulations were positively correlated with 8-epi-PGF_{2α}. Leptin, hsCRP and PAI-1 also positively associated with 8-epi-PGF_{2α}. Mutliple linear regression analyses indicated lower-body FM and PAI-1 were the two important predicators of 8-epi-PGF_{2α}. These results suggest that DXA-derived regional FM indices, especially low extremity adiposity, are more closely associated with systemic oxidative stress than indirect anthropometric indices. Positive associations between 8-epi-PGF_{2α} and PAI-1, hsCRP, leptin support the notion that oxidative-stress-induced dysregulation of inflammation and adipokines may mediate the obesity-related metabolic derangement.

Key words: Oxidative stress, Body fat distribution, Adipokines

(Endocrine Journal 56: 773-782, 2009)

OBESITY is the principle causative factor and main component of metabolic syndrome (MetS) [1]. MetS is associated with high risk for the development of diabetes and cardiovascular diseases (CVD)[2]. However, the underlying mechanisms linking obesity with MetS have not been fully elucidated. It is well known that overproduction of some adipokines, including TNF- α [3] and PAI-1 [4] in adipose tissue may lead to the de-

Received Nov. 14, 2008; Accepted May 15, 2009 as K08E-332 Released online in J-STAGE as advance publication Jun. 9, 2009 Correspondence to: Bin WU, Open Research Center for Studying of Lifestyle-Related Diseases, Mukogawa Women's University 6-46, Ikebiraki-cho, Nishinomiya, Hyogo, 663-8558, Japan. E-mail: wu.bin@gmx.com

velopment of insulin resistance and atherosclerosis. But the factors regulating the production and secretion of such adipokines in adipose tissue have not been clearly understood.

Oxidative stress is one of the important pathways that involves in atherosclerosis [5, 6], endothelial dysfunction [7] and diabetes [8]. Recently it is reported that in cultured adipocytes, increased oxidative stress may cause deregulated production of adipokines, including leptin, adiponectin, PAI-1 and monocyte chemotactic protein-1 (MCP-1) thus lead to metabolic derangements [9]. Various cross-sectional studies implicated a significant positive relationship of systemic oxidative stress with obesity—related indices such as BMI and WC [9-12]. Obesity is regarded as a hyper-oxida-

^{*}Open Research Center for Studying of Lifestyle-Related Diseases, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Hyogo, Japan

^{**}Department of Food Sciences and Nutrition, School of Human Environmental Science, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Hyogo, Japan

^{***}Department of Diabetes and Endocrinology, Toho University Omori Medical Center, Omori-Ku, Tokyo, Japan